

## 4.2 メンバー国での災害の特徴

表5 メンバー国内の自然災害(メンバー国別・2002年)  
(国名/災害の種類/災害特性)

国名	災害の種類	災害数	死者数	被災者数	被害額 US\$(000's)
バングラデシュ	疫病	1	96	49,904	
	異常気温	1	700	50,000	
	洪水	1	10	1,500,000	
	暴風	4	122	101,400	
<b>バングラデシュ合計</b>		<b>7</b>	<b>928</b>	<b>1,701,304</b>	
カンボジア	干ばつ	1	0	650,000	38,000
	洪水	1	29	1,470,000	
<b>カンボジア合計</b>		<b>2</b>	<b>29</b>	<b>2,120,000</b>	<b>38,000</b>
中国	干ばつ	2	0	1,218,000	
	地震	2	2	65,870	
	疫病	1	5	300	
	異常気温	1	7	3,500	
	洪水	10	1,228	113,255,696	5,236,680
	地滑り	4	63	11	
	暴風	6	98	107,403,084	256,500
<b>中国合計</b>		<b>26</b>	<b>1,403</b>	<b>221,946,461</b>	<b>5,493,180</b>
インド	干ばつ	1		300,000,000	910,721
	地震	1	2	200	
	疫病	2	50	5,150	
	異常気温	2	1,930		
	洪水	6	732	42,005,250	30,772
	暴風	4	144	15,250	416
<b>インド合計</b>		<b>16</b>	<b>2,858</b>	<b>342,025,850</b>	<b>941,909</b>
インドネシア	地震	4	11	11,847	
	疫病	1	17	757	
	洪水	7	230	133,180	16,000

	地滑り	1	32	5	
国名	災害の種類	災害数	死者数	被災者数	被害額 US\$(000's)
	火山	1	0	5,000	
	山火事	1	0	200	
<b>インドネシア合計</b>		<b>15</b>	<b>290</b>	<b>150,989</b>	<b>16,000</b>
日本	山火事	1	0	222	
	暴風	3	5	100,825	
<b>日本合計</b>		<b>4</b>	<b>5</b>	<b>101,047</b>	
韓国	洪水	1	20	27,507	173,224
	暴風	2	96	91,429	215,000
<b>韓国合計</b>		<b>3</b>	<b>116</b>	<b>118,936</b>	<b>388,224</b>
キルギス	地滑り	1	0	1,002	1,500
<b>キルギス合計</b>		<b>1</b>	<b>0</b>	<b>1,002</b>	<b>1,500</b>
ラオス	洪水	1	2	74,500	
<b>ラオス合計</b>		<b>1</b>	<b>2</b>	<b>74,500</b>	
マレーシア	地滑り	1	10		
	暴風	1	2	155	
<b>マレーシア合計</b>		<b>2</b>	<b>12</b>	<b>155</b>	
モンゴル	干ばつ	1			
	暴風	2	3	665,000	
<b>モンゴル合計</b>		<b>3</b>	<b>3</b>	<b>665,000</b>	
ミャンマー	洪水	1	21	50,000	
<b>ミャンマー合計</b>		<b>1</b>	<b>21</b>	<b>50,000</b>	
	地滑り	1	472	265,865	
ネパール	異常気温	1	60	200	
<b>ネパール合計</b>		<b>2</b>	<b>532</b>	<b>266,065</b>	
パプアニューギニア	地震	2	5	5,470	
	疫病	2	142	2,215	
	地滑り	1	36	174	
	火山	1	0	13,000	
<b>パプアニューギニア合計</b>		<b>6</b>	<b>183</b>	<b>20,859</b>	
フィリピン	干ばつ	1			453

	地震	1	7	73,390	1,714
国名	災害の種類	災害数	死者数	被災者数	被害額 US\$(000's)
	洪水	4	85	150,567	392
	暴風	3	102	714,041	6,914
<b>フィリピン</b>		<b>9</b>	<b>194</b>	<b>937,998</b>	<b>9,473</b>
ロシア	異常気温	1	242	25,062	
	洪水	4	174	336,313	507,970
	地滑り	1	111		
	山火事	3		120	
	暴風	2	17		
<b>ロシア合計</b>		<b>11</b>	<b>544</b>	<b>361,495</b>	<b>507,970</b>
スリランカ	干ばつ	1	0	557,000	
	洪水	1		500,000	
<b>スリランカ合計</b>		<b>2</b>	<b>0</b>	<b>1,057,000</b>	
タジキスタン	地震	2	3	2,054	
	洪水	4	32	4,251	2,836
<b>タジキスタン合計</b>		<b>6</b>	<b>35</b>	<b>6,305</b>	<b>2,836</b>
タイ	干ばつ	1	0	5,000,000	2,300
	洪水	2	154	3,290,920	35,827
	地滑り	1	39	500,000	
	暴風	2	0	27,500	
<b>タイ</b>		<b>6</b>	<b>193</b>	<b>8,818,420</b>	<b>38,127</b>
ベトナム	干ばつ	1	0	1,000,000	
	洪水	3	207	1,514,816	43,500
	山火事	1			
	暴風	1	0	1,800	100
<b>ベトナム合計</b>		<b>6</b>	<b>207</b>	<b>2,516,616</b>	<b>43,600</b>
<b>総合計</b>		<b>129</b>	<b>7,555</b>	<b>582,940,002</b>	<b>7,480,819</b>

表 4 は、災害別のメンバー国に与えた影響を表したもので、次の表 5 は国別の災害状況を表したものである。

それよるとバングラデシュは、疫病、異常気温、洪水、暴風の影響を受け、これら全てがかな

りの人的被害・損失をもたらした。2002年におけるもっとも深刻な災害は洪水だった。バングラデシュは、ベンガル湾で発生するサイクロンの通り道であり、それにより気象災害の影響を受けやすい地域であることがわかる。

広大な土地と多くの人民を抱えた中国では、およそ全種類の災害が観測されている。2002年におけるもっとも深刻な災害は洪水と暴風で、そして干ばつが続いている。また地震は多くの人々に影響を与えた。被災人口という点から2番目に大きかった自然災害は、洪水であった。

2002年のインドは、災害の一年といつていいほど、災害の影響を色濃く受けた年となり、干ばつによる被害が世界で一番深刻で、3億人もの人々に影響を与えた。また、洪水も深刻な被害をもたらした。これはインドの地理的条件によるもので、ベンガル湾やアラビア海で発生する暴風災害やヒマラヤ山脈の活発な地殻活動による地震、モンスーンによって引き起こされる洪水、乾燥・半乾燥地で発生する干ばつなどの自然災害に影響を受けやすい地域に位置するためである。

2002年のインドネシアは、被災人口という点から見ると、洪水、地震、火山活動により最も影響を受けた年だった。地震帯がこの国の下に走っているため、インドネシアは地震の影響を受けやすい国であるといえる。さらに、129の活火山があり、たびたび火山噴火が起こる。洪水は暴風を伴って雨季に起こりやすい。

日本は台風の影響を受けやすい地域にあるだけでなく、活発なプレート境界上にある太平洋地震帯・火山帯に位置している。従って日本は、気象災害や地震・火山災害の両方による様々な種類の自然災害から影響を受けやすい国であるといえる。また、このような災害による経済被害は世界で最も大きい値を記録したが、被災人口は少なかった。それにもかかわらず2002年は前年に比べると被害は少なく、目立った人的被害といえば暴風によるものだけだった。

韓国で発生した自然災害は、ほとんどが雨季の洪水と暴風で、経済損失と同様に、人的被害はこれらによってもたらされ、かなり高い数値を記録した。

キルギスは、最も新しいADRCメンバー国で、土地の90%近くは、海拔1,000m以上の山脈に覆われ、その山脈のうち40%は、3,000mを越える高山地となっている。このような地理条件が原因となり発生する自然災害の特徴は、活発な地殻変動による地震、雪解け水や地滑りによってもたらされる洪水である。2002年に地滑りを観測したが、幸いなことに、被災者数は少なかった。

ラオスは95%を山に覆われているが、他のアジア地域に比べると健全な自然林を有しているといえる。さらにラオスでは、メコン川の約35%が国土を通過しており、雨季には洪水の被害を受けやすい。2002年は洪水による人的被害がかなりの値になった。

マレーシアは、地理的に地震や火山活動による被害をあまり受けない地域に位置している。モンスーン期の降雨による洪水や地滑り、熱帯低気圧による暴風雨はこの国を頻繁に襲う。2002年は暴風や地滑りを記録したが、人的損失や経済損失は取るに足らないものであった。

モンゴルはロシアと中国の間にある陸に閉ざされた国で、主な災害はズッド、豪雪、砂嵐、洪水等があげられる。人口密度が低く、経済規模が小さいので、災害の規模はそんなに大きく感じ

られない。2002年には、干ばつや暴風を記録し、後者は多くの人々に深刻な被害をもたらした。

ミャンマーは、ベンガル湾で発生するサイクロンや、モンスーン期の洪水、降雨による地滑りの被害を受けた。2002年は、洪水が多くの人々の被害をもたらした。

ヒマラヤ地域に位置するネパールの地理的条件を見てみると、チベットプレートの下にインドプレートが入りこんでおり、地殻変動による地震が頻繁に発生する。また、洪水、地滑り、異常気温はネパールの脅威となっている。図から見てもわかるように、2002年は異常気温や地滑りによる被害を受け、かなりの人的損失を引き起こし、多くの家族が家を失った。

パプアニューギニアは、地震、津波、火山活動、洪水、暴風など数多くの自然災害に対して脆弱である。2002年に起こった自然災害の多くは、地震・火山災害で、被災人口はかなり高い数値を記録した。

フィリピンは、環太平洋火山帯に位置し、気象災害と地震・火山災害の両方の自然災害に対して脆弱である。前年同様、2002年においても気象災害による被害が多く、洪水、暴風、そして地震による順で被災人口が多かった。また暴風による経済損失は著しいものであった。

ロシアは広大な土地を抱えており、災害による被災人口と経済損失は高いものであった。異常気温、洪水、地滑り、暴風は、2002年においてかなり多くの人的損失と被害をもたらした。また、これらによる経済損失はかなりの額にのぼった。

乾季に発生する干ばつや、ベンガル湾で発生するサイクロンが原因の雨季の暴風や洪水は、スリランカにとって最大の問題である。2002年は、干ばつや洪水に見舞われ、被災人口はかなり高いものとなった。

タジキスタンの国土のほとんどは山に覆われ、地震と洪水はこの国にとって脅威となっている。2002年には、地震と洪水が発生したが、人的被害は少なかった。

タイは、地理的位置とその地形から自然災害の影響を受けやすい。北東地域は洪水や干ばつの影響を受けやすく、南部は嵐、洪水、地滑りが起きやすい。2002年のタイは、このような災害に見舞われ、気象災害が原因の被災者数は、アジア地域の中でかなり高かった。

ベトナムは、南東モンスーン気候地域に位置し、年間降水量のほとんどがこの雨季に観測される。この時期に毎年、かなりの人的・経済的損失がもたらされる。従ってこの国では、干ばつや洪水、暴風が深刻な人的被害・損失をもたらすものと言える。

上記の表によって結論付けられるのは、アジア地域における ADRC メンバー国のほとんどが、気象災害による被害を受け、それにより社会や経済開発活動の上に深刻な人的・経済的損失を受けているということである。さらに人々の上に降りかかる災害による深刻な影響は、社会・経済的前進を奪い取られ、国家や地域の発展にマイナスとなっている。2002年に起こった世界で最も深刻な災害は、アジア地域（インド、中国、バングラデシュ、タイ）で発生し、この地域で多くの人々に深刻な被害をもたらした。それ故に、人的・経済的損失や被害を減少させるため、適切

な災害軽減対策や防災計画を構築・実施することは大変重要で、そうして始めて地球規模での持続可能な開発に貢献することができるであろう。